

環境シンポジウム
ぼくたちわたしたちの地球会議2024

(仮称)にのみや気候市民会議
キックオフ講演会



その昔、二宮の人々は自然とともに暮らしていた。水は吾妻山などの森から、きらきらと流れていた。葛川や一面に広がる田んぼには、いろいろな生きものが住んでいた。野うさぎが駆けめぐり、とんぼが空を舞う里山の風景。子どもたちは目を輝かせて日が暮れるまで遊んだ。長く続く松林を越えると、100メートルにもなる広大な砂浜が太平洋の遥かな海を迎えた。山の水を集める豊かな川の薫りと瀬の海は、年間60万尾ものブリの水揚げをもたらしたという。漁師たちが稲わらで編んだ網は、古くなると海の中でイセエビの漁礁に活かされた。すべては循環し、繋がらあう営みの中にあった。



あらゆる立場を越えた協働・共創

問題解決に向けた仕組みの構築

生物多様性の回復



対話の場



町民 ↔ 行政

